



周辺環境と呼吸する木架構の体育館

“淡路島 かよふ千鳥の 鳴く声に 幾夜寝ざめぬ 須磨の関守”と、源兼昌に詠まれた、在原行平、平致盛の史跡などでロマンの香りがする景勝地、須磨。神戸特有の明石海峡や淡路島をのぞむ清閑な神戸市須磨の丘陵地に位置する女子中高一貫校の第二体育館の計画である。体育館は機能上、周辺環境に対して閉鎖的な空間になりがちであるが、今回は、木架構を取り入れることで、夏は心地よい風がふき、安定した光で満たされ、里山の緑へとつながってゆくような周辺環境と柔らかく呼吸する建築を目指した。今回の計画は、既存棟の外部に閉鎖的なプランとは対称的に外部に開かれたプランをとることで、キャンパス内に豊かな自然と呼吸する新たな子供たちの集う場をつくりだした。

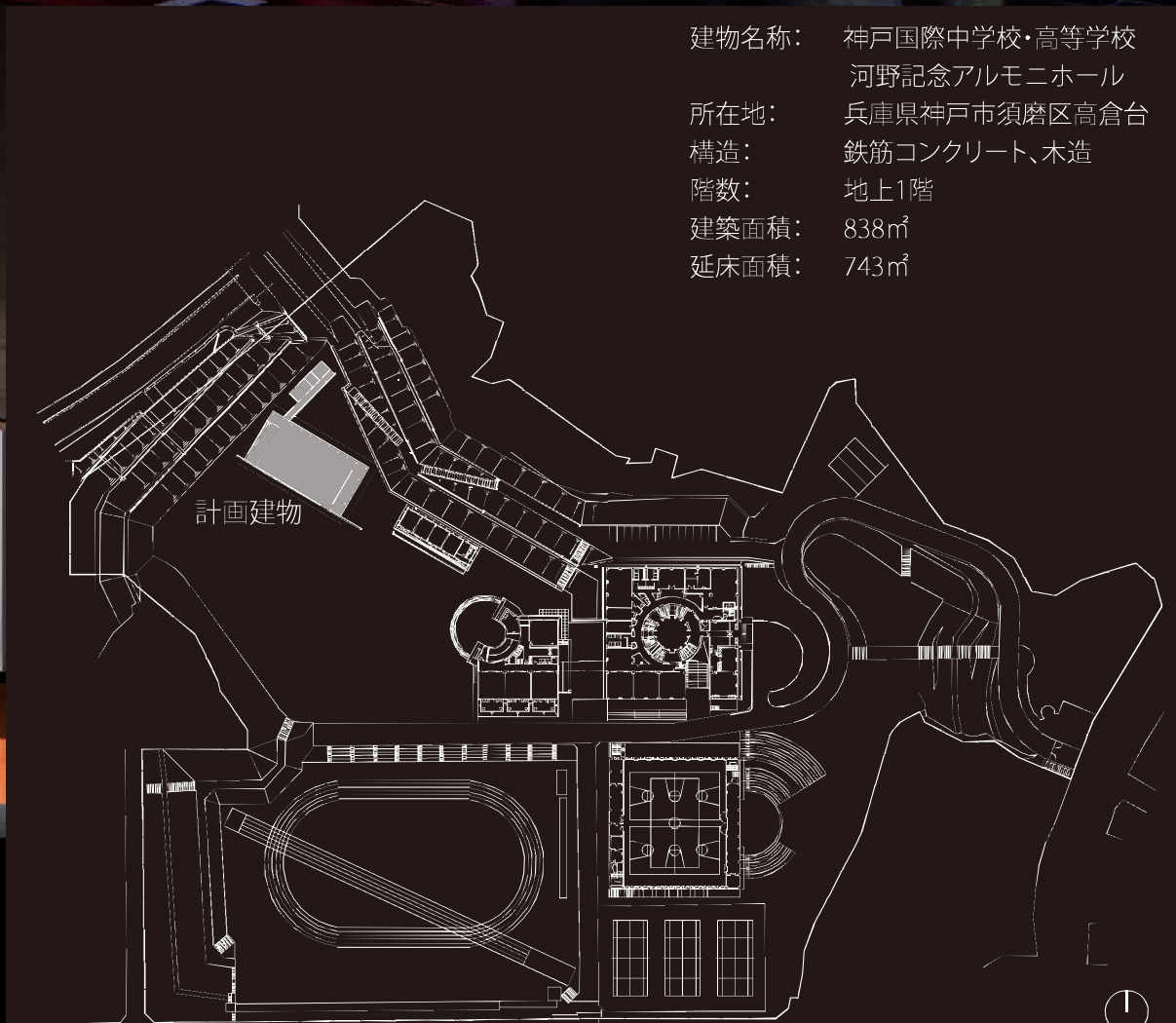
1. 明石海峡や淡路島をのぞく風景の中にふわりと浮いた木架構が、里山のり面、中庭、体育館とを連続的につないでいく



2. 北側の開口一面に北側の里山の緑を借景する。中間期にはホールと中庭が一体利用される

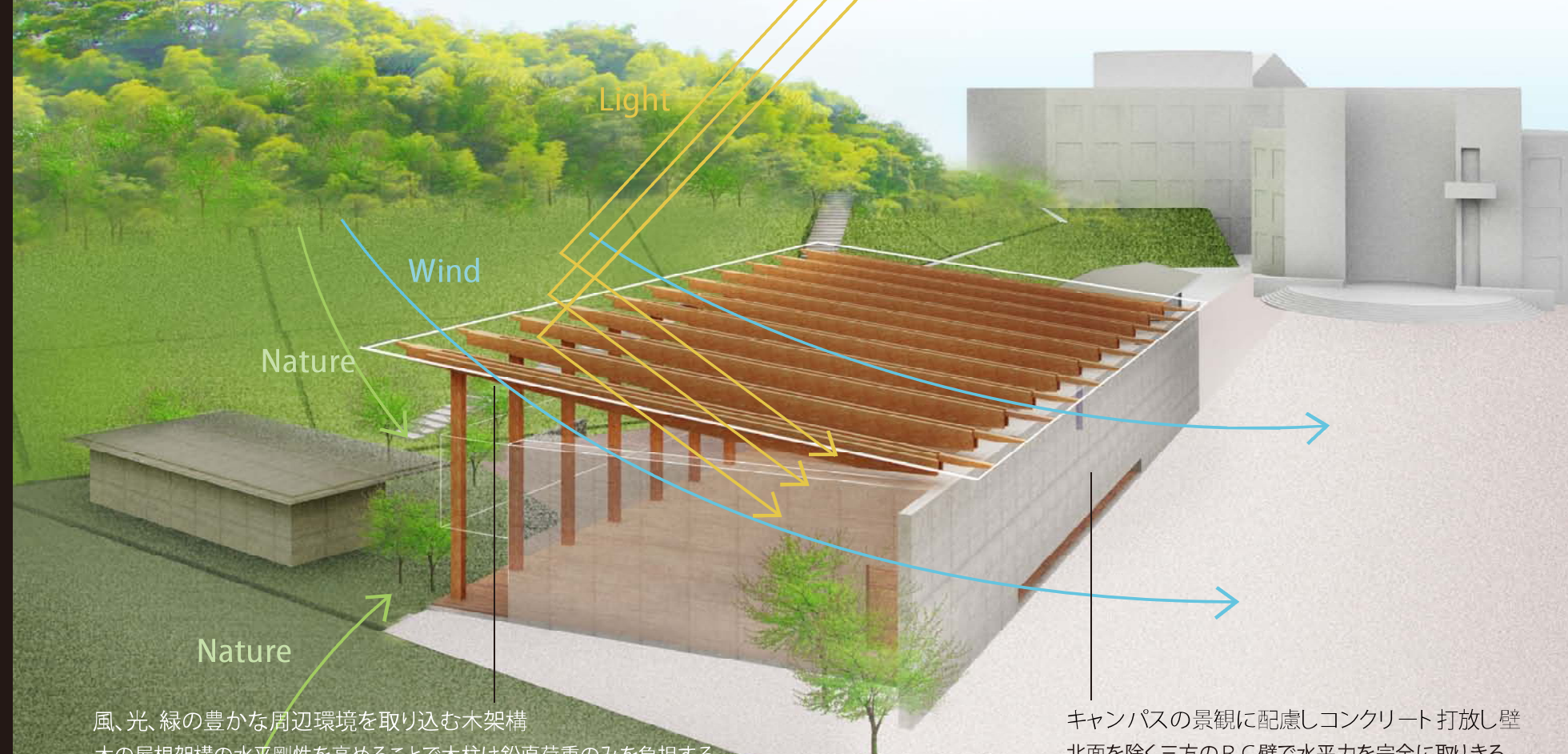


3. 突き当たりの法面にはソツジが見え、床に降りこむ、子供たちを柔らかく受け入れるエントランスホール



建物名称：神戸国際中学校・高等学校
 河野記念アレーモホール
 所在地：兵庫県神戸市須磨区高倉台
 構造：鉄骨コンクリート、木造
 階数：地上1階
 建築面積：838㎡
 延床面積：743㎡

既存棟につながる南直はキャンパスの景観に配慮し高さ6m、長さ46mの「コシグリッド」壁、北側の豊かな生体系を有する里山に対しては長さ5m、高さ20mの「木」架構と対比的な構成とした。



風、光、緑の豊かな周辺環境を取り込む木架構
 木の屋根架構の水平剛性を高めることで木柱は鉛直荷重のみを負担する

キャンパスの景観に配慮しコンクリート打放し壁
 北面を除く三方のRC壁で水平力を完全に取る



ホールとオーランジュコートが重なる中庭の様子

4. 夏はのり面をつたって風が吹きこむ。朝はさわやかな光が差し込み、日中はのり面をリバウンドした柔らかな光が入りこむ

5. 既存棟の中庭にははわわの草花が咲き、天井は木製新仕上りのみとした。また天井が高い大空間における金魚池を実現している

6. 20mの大梁をピン接合なしの耐震梁として採用するため、ツリローの荷重の軽減を設計の前提条件で行った

Wind 涼風から吹き下ろす北風による自然通風
 Light 安定した北照採光
 Nature 生態系のランドスケープ

この地の特色を用い、生物学的にも連続性のあるランドスケープを創り出す。建設地の周辺地域より子や孫を採集、培養、建物周辺に移植した